

視点2 「大隅終末ベーシック」の考え方で、授業をデザインする。



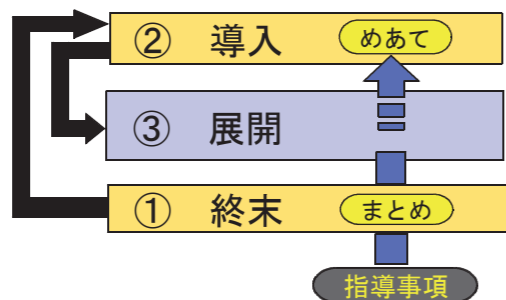
前頁の小3国語【第4時】、中2数学【第10時】の1単位時間の学習活動例です。

【小3国語】

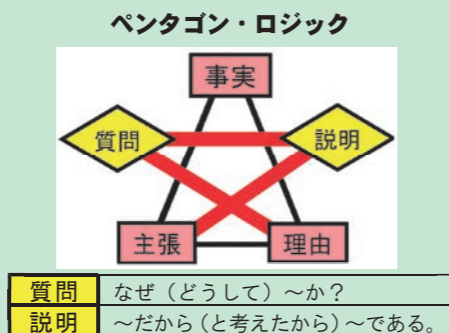
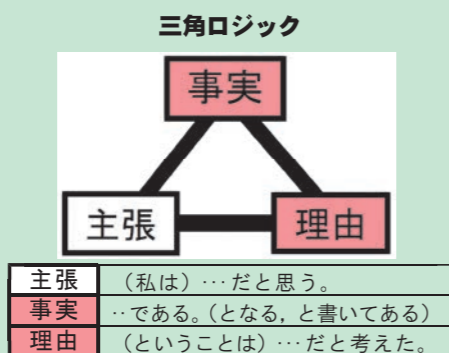
第4時

過程	主な学習活動
つかむ・みとのおす	1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認める。 2 本時のめあてを話し合う。 「中」ののれいの書かれ方には、どんな工夫があるのだろうか。 3 解決の見通しをもつ。 ・音読 ・表にまとめて考える。 一人調べ→ペア・グループ→全体
しらべる・ふかめる	4 本時の学習場面「中」を音読する。 5 「中」の例の書かれ方の工夫について調べる。 (1) 一人調べで、表を作成しながら考える。 (2) ペアで、考えを伝え合う。 6 全体で話し合う。 (1) おいしく食べる工夫や食品の例、作り方等をまとめた表を基に、見付けた工夫について話し合う。 (2) 「中」の5つの例の順序を入れ替えたらどうなるかを話し合う。 (3) 例の書かれ方の工夫によって、どんな効果があるのかを話し合う。
ふりかえる・いかす	7 本時のまとめをする。 「れいをあげるじゅんじょ」や「写真の使い方」を工夫している。 8 見届け問題（すがたを変える魚）をする。 9 本時の学習を振り返る。 10 次時の学習を確認する。

「大隅終末ベーシック」の考え方



「論理的思考力」を育てるために



【参考：鹿児島大学 原田義則准教授 講演資料から】

「終末3点セット」で行う

まとめ

板書にキーワード
自分なりのまとめ
まとめの例示

	誰が	何を
まとめ	児童生徒	めあてに対する結論や到達度・達成度
振り返り	児童生徒	学習に関する自己の変容等

「めあて」が行動目標（～しよう）でも、できる「まとめ」を！

見届け問題

指導事項を基に作成
「解けた」事実で見届け

【小3国語】

【見届け問題】 文字式による説明
2年()組()番 名前()
カレンダーで、斜めに並んだ3つの数の和は3の倍数であることを、文字式を使って説明しなさい。

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

【中2数学】

【見届け問題】 文字式による説明
2年()組()番 名前()
カレンダーで、斜めに並んだ3つの数の和は3の倍数であることを、文字式を使って説明しなさい。

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

振り返り

少なくとも3分確保
継続して効果大

ダイヤモンド・サイクル

【参考：鹿児島大学 原田義則准教授 講演資料から】

【中2数学】

第10時

過程	主な学習活動
導入	1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認める。 2 本時のめあてを話し合う。 カレンダーで縦に並んだ3つの数の和が、3の倍数であると本当に言えるのだろうか。 3 解決の見通しをもつ。 ・予想 ・文字を使って考える
展開	4 自力解決をする。 【予想例】 $n, n+7, n+14$ $n-7, n, n+7$ 5 ペアで、それぞれの解決方法について、意見交換を行う。 6 全体で話し合う。 (1) 複数の解決方法を比較しながら見付けた共通点と相違点について話し合う。 (2) 3つの数が、それぞれどのように表されているかを話し合う。 (3) 分配法則を使って式を変形することに、どんな目的があるのかを話し合う。
終末	7 本時のまとめをする。 縦に並んだ3つの数を、その差に着目しながら文字を使って表し、それらの和が $3 \times (\text{整数})$ の形で表されるから、3の倍数だとと言える。 8 見届け問題をする。 9 本時の学習を振り返る。 10 次時の学習を確認する。



「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

© 鹿児島県ぐりぶー

大隅教育事務所

令和5年度版大隅学力向上リーフレットのテーマは、「単元づくり」です。「主体的・対話的で深い学び」は、必ずしも1単位時間の授業の中で、全てが実現されるものではありません。単元の内容や時間のまとまりを見通し、例えば、振り返る場面、深める場面等をどこに設定するか、子供が考える場面と教師が教える場面をどう組み立てるかといった視点で、内容や時間のまとまりを構成していくことが大切です。令和4年度版「授業づくり(1単位時間)」と、セットで活用してください。

「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善(3つの柱)

- 柱1** 学習者主体の授業づくり
- 柱2** 演習問題の計画的な実施
- 柱3** 補充指導、個別指導の充実



今回は、**柱1**に焦点を絞り、「単元づくり」を、2つの視点(単元デザイン、授業デザイン)から説明します。

視点1 「大隅終末ベーシック」の考え方で、単元をデザインする。

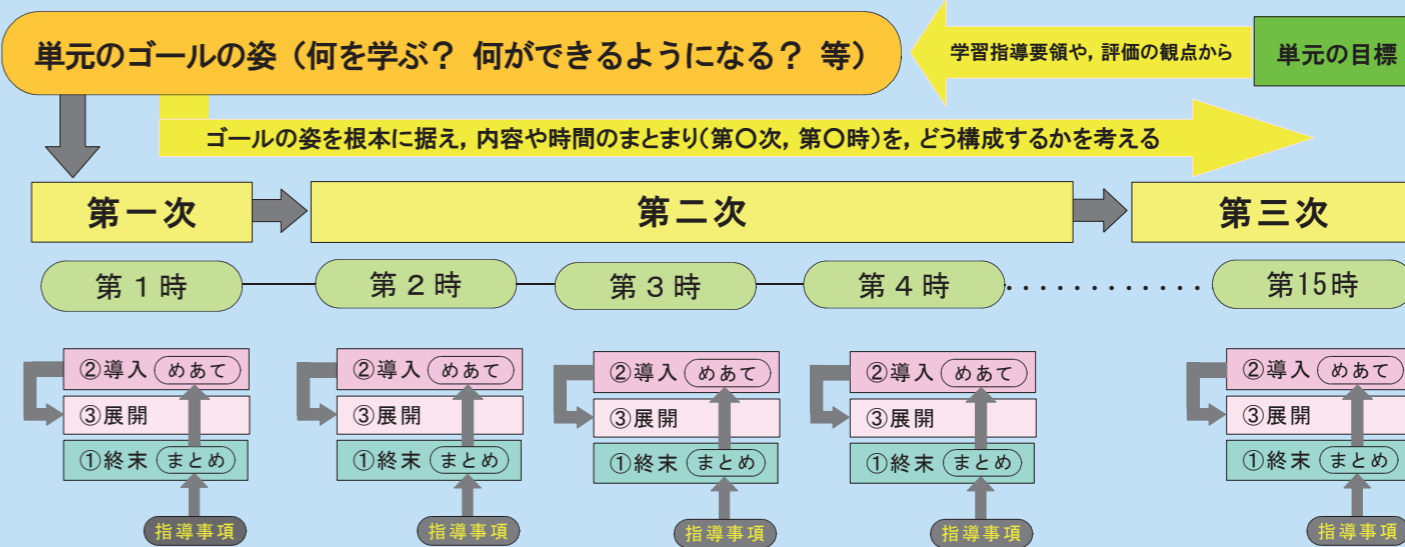
- ◆ 大隅終末ベーシック … 「授業の終末を根本に据えて、授業をつくる」という考え方
- ◆ 単元をデザインする … 「単元の内容や時間のまとまりを、どのように構成するか」を考えること

「大隅終末ベーシックの考え方で、単元をデザインする」とは

「単元のゴールの姿を根本に据えて、単元の内容や時間のまとまりを、どのように構成するか」を考えること



下の図は、大隅終末ベーシックの考え方で、単元全体を捉えたイメージです。「何を学ぶ? 何ができるようになる?等」の具体的な子供の姿で単元のゴールを捉えることが、「学習者主体の授業づくり」につながります。



では、このイメージで、実際に単元をデザインしてみましょう。

小学校第3学年国語「れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう」(単元デザイン例)

教材名「すがたをかえる大豆」「科学読み物での調べ方」「食べ物のひみつを教えます」光村図書3年下

単元のゴールの姿(何を学ぶ? 何ができるようになる? 等)

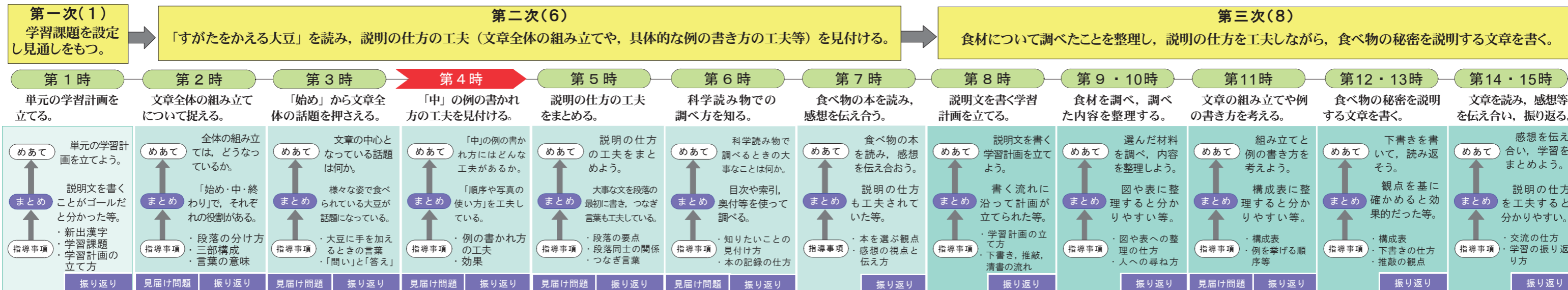
- 「すがたをかえる大豆」を読んで、説明文の組み立てや、事例の書き方の工夫を学ぶ。
- 段落の中心になる言葉や文を見付け、図や表にまとめ、整理しながら学ぶ。
- 学んだことを生かし、知らせたい「食べ物の秘密」について、説明する文章を書けるようになる。

〔学習指導要領解説のキーワード〕

- 読 段落相互、考えと理由や事例との関係中心となる語や文を見付けて要約
- 書 集めた材料の比較・分類内容のまとめ(段落、段落相互の関係)

単元の目標

- ◎ 比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使うことができる。【知(2)イ】
- ◎ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。【思B(1)ウ】
- ◎ 段落相互の関係に着目し、考えとそれを支える理由や事例との関係等について、叙述を基に捉えることができる。【思C(1)ア】
- 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【知(3)オ】



単元デザイン 3つのポイント

- 単元の「目標」とともに、「ゴールの姿」を具体的に設定する。
- 学習指導要領や教科書等で、単元の内容や時間のまとまりを整理する。
- 子供の実態や学習活動の視点等から、単元の内容や時間のまとまりを見直す。

- 「学習活動の視点」から見直す
 - 単元全体の学習の流れ(習得・活用・探究)
 - 単元全体の「まとめ」「振り返り」の時間等
- 「終末3点セット」の視点から見直す
 - 「まとめ」「見届け問題」「振り返り」の位置付け
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点から見直す
 - 個別最適な学び → 指導の個別化
 - 協働的な学び → 学習の個性化
 - 協働的な学び → 多様な他者との関わり

〔見直しの例〕 ・「第〇次」の内容の追加、時間数の増減 ・「第〇次」の後半に自由進度学習と設定等

中学校第2学年数学 A 数と式 A(1) 文字を用いた式(単元デザイン例)

単元のゴールの姿(何を学ぶ? 何ができるようになる? 等)

- 文字を用いた式による説明の仕方を学ぶ。
- 問題解決の場面において、具体的な数で計算することを通して、数や図形などの性質を見だし、その性質を文字を用いた式で説明できるようになる。

〔学習指導要領解説のキーワード〕

- 整式の計算
- 文字を用いた式で説明
- 目的に応じた式の変形
- 文字を用いた式を具体的な場面で活用

単元の目標

- ① 文字を用いた式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。【知識及び技能】
- ② 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ③ 文字を用いた式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を身に付ける。【学びに向かう力、人間性等】

